

美しい“ふじのくに”まち・ひと・しごと創生県民会議 伊豆半島地域会議  
令和5年1月13日

**【青木 賀茂地域局次長兼地域課長】**

ただ今より、「美しい“ふじのくに”まち・ひと・しごと創生県民会議 伊豆半島地域会議」を開催いたします。本日はお忙しい中、当会議に御出席いただき、誠にありがとうございます。

私は、本日司会進行を務めさせていただきます、賀茂地域局次長兼地域課長の青木と申します。よろしくお願ひいたします。

開会に先立ちまして、議長である板垣静岡県東部地域局長から御挨拶を申し上げます。

**【板垣 東部地域局長】**

東部地域局長の板垣でございます。本日は公私ともお忙しい中、まち・ひと・しごと創生県民会議の伊豆半島地域会議に、産官学金労言の各界・各層より地域を代表する皆様にお集まりいただき、誠にありがとうございます。

この会議は、地方創生に向けた官民一体の取組を推進する事を目的として、平成27年から開催しており、今回で9回目となります。

静岡県の「美しい“ふじのくに”まち・ひと・しごと創生総合戦略」は、平成27年に「第1期」が策定され、令和2年度に、皆様方の御協力のもと、令和2年から令和6年度の5か年計画とする「第2期」を策定しました。

この総合戦略に基づいて、伊豆半島地域では、「世界レベルの魅力あふれる自然を生かした観光交流圏」の実現に向けて、総合戦略に盛り込んだ様々な取組を、幅広い地域のみなさまと連携・協働しながら、推進しております。

伊豆半島地域はユネスコから認定されている世界ジオパークの再認定が昨年12月に決定し、今年の3月までに伊豆縦貫自動車道のうち、河津IC～逆川ICの開通が予定されているなど明るい話題もございます。

本日お集まりのみなさまが日頃から取り組んでいる優れた取組を共有し、お互いの連携を進めることで、人口が減っても、基本的な社会システムを維持し、活力に満ちあふれた社会を、魅力あふれる伊豆半島を、次の世代に継承できればと思っております。

短い時間ではございますが、様々な御意見をいただき、この地域の活性化のために努力してまいりたいと思ひます。本日はどうぞよろしくお願い申し上げます。

**【青木 地域局次長兼地域課長】**

ありがとうございました。さて、当会議の目的、構成員等につきましては、お配りしております「美しい“ふじのくに”まち・ひと・しごと創生県民会議伊豆半島地域会議」の設置及び運営に関する要綱のとおりでございます。

また、本日の出席者の御紹介につきましては、時間の都合により配布しました出席者名簿により代えさせていただきます。

なお本日御発言いただいた内容は、会議として、ホームページ等で公開させていただきますので、あらかじめご承知おき願います。それでは、議事進行役は美しい“ふじのくに”まち・ひと・しごと創生県民会議伊豆半島地域会議設置及び運営に関する要綱第3条3項の規定に基づきまして、議長である板垣東部地域局長にお願いいたします。

#### 【板垣 東部地域局長】

東部地域局長の板垣でございます。円滑な議事進行に務めますので、ぜひ皆様方のご協力をお願いしたいと思います。それでは次第に従いまして、議事を進行します。

初めに、次第の3(1)「美しい“ふじのくに”にまちひとしごと創生総合戦略」の取り組み状況につきまして、県の地域振興課、山岸課長から説明をお願いいたします。

#### 【山岸 地域振興課長】

はい。地域振興課長の山岸と申します。本日はよろしく申し上げます。着座にて失礼いたします。資料1と右上にふられた資料を中心に説明をいたします。

資料1の1ページをご覧をいただきたいと思います。またこれからの説明につきましては各スライドの右下に記載されているページにてご案内をさせていただきます。

県では、令和2年3月に、第2期「美しい“ふじのくに”まち・ひと・しごと創生総合戦略」を策定し、人口減少の克服、地方創生の実現に向けた取組を進めております。本日は、令和2年度から令和6年度までの5か年の本戦略の、令和4年度の進捗評価をお願いするものです。資料1を中心に御説明いたします。なお、資料2から資料4は評価書案の概要資料、資料5は評価書案の本体全文、資料6は地方創生関係交付金の事業実施状況を取りまとめたものです。御参照いただければと存じます。

それでは、資料1に基づき、御説明いたします。1ページをご覧ください。最初に、「本県の人口減少の現状」でございます。上段の「本県の人口推移と将来推計人口」にありますように、2020年の国勢調査による本県人口は、363万3,000人、国立社会保障・人口問題研究所の推計では、361万6,000人でありましたことから、推計をわずかに上回っております。下段は、本県の人口動態の経年変化ですが、2021年は、21,020人の自然減と、6,940人の社会減により、27,960人の人口減となっており、人口減少が拡大している状況でございます。

2ページをご覧ください。「美しい“ふじのくに”まち・ひと・しごと創生総合戦略の概要」でございます。本総合戦略は、5つの戦略ごとに目指すべき方向性を掲げ、65の施策パッケージにより構成されております。

3 ページをご覧ください。「美しい“ふじのくに”まち・ひと・しごと創生総合戦略の評価」です。総合戦略では、PDCAサイクルを徹底することとしており、右側にありますとおり、自己評価に加え、県民会議等の外部評価を実施し、次年度の取組に反映することとしております。

4 ページをご覧ください。「令和4年度の評価方針」でございます。重要業績評価指標（KPI）について、表に示す判断基準により進捗状況の評価を行うとともに、課題解決に向けた今後の取組方針を明示いたしました。併せて、最新の実績値の判明に伴う重要業績評価指標（KPI）の見直しを行いました。

5 ページをご覧ください。「スケジュール」でございます。伊豆半島、東部地域、中部地域、西部地域における地域会議と、県民会議で御意見を賜り、パブリックコメント、県議会での審査を経て、3月に評価結果を公表してまいります。

6 ページをご覧ください。「重要業績評価指標（KPI）の評価」でございます。成果を測る指標では、実績値が明らかとなった119指標のうち、52.9%がB評価以上となりました。進捗を測る指標では、実績値が明らかとなった242指標のうち、62%が○評価以上となりました。コロナ禍が現状値に影響を与えた指標を除きますと、成果を測る指標では61.5%、進捗を測る指標では73%が概ね計画通り進捗しております。

7 ページをご覧ください。「今後の取組方針の明示」です。足許の人口減少を踏まえた要因の分析としましては、まず、上段の年齢階層別の社会増減では、9歳以下と、30歳、40歳代が社会増に改善した一方で、10歳、20歳代では毎年6,000人程度の社会減が継続しております。また、下段左の合計特殊出生率の推移では、全国同様低下傾向であり、右の表のとおり、有配偶女性千人当たり出生数の2015年と2020年の比較では、第2子出生数の減少幅が、全国と比べて大きくなっています。

8 ページをご覧ください。足許の人口減少を踏まえた要因の分析に基づき、3つの重点課題を検討いたしました。1つ目は、若者約6,000人の転出超過が続き、特に女性の比率が高いことや、若い世代は本県に「やってみたい仕事や給与水準の高い仕事がない」と感じていること、新規大卒者の3年以内離職率は約3割、県内大学の新規大卒者の県内就職率は約6割ということなどの現状に対し、若者・女性の雇用の受け皿づくり、県外離職者等や県内新規大卒者等の県内就業の促進により、若者・女性の県内への就業の拡大を図る必要がございます。2つ目は、テレワーク移住者の急増や、「住環境を変えたい」「子育て環境」を考える移住者が多いこと、20歳代、30歳代の移住者は副業に関心が高いこと、移住者は本県に「好きな場所」や「好きなコト」があったことなどの現状に対し、多様化する暮らしのニーズへ対応や、移住につながる事前の「関係性」づくりを進めることで、若者・子育て世代の移住の拡大を図る必要がございます。3つ目は、合計特殊出生率低下は第二子出生率低下が要因であることや、「子育てにお金がかかり過ぎる」と考える人が多いこと、女性の約5割が出産を機に離職しており、復職時には、「仕事や雇用形態が希望に合っているか」や、「仕事について

いけるか」などに不安に感じていることなどの現状に対し、出産・育児期の就業継続をはじめ、離職者の復職等を促進することにより、子育てと両立できる働き方の導入を図る必要がございます。

9ページをご覧ください。足許の人口減少を踏まえた対応でございます。

重点課題1の「若者・女性の県内への就業の拡大」につきましては、若者・女性の雇用の受け皿づくりといたしまして、若者や女性の雇用比率が高いサービス業の誘致に新たに取り組むとともに、製造業等の企業立地や中小企業の経営革新への取組の強化等により雇用の創出を図ってまいります。県外離転職者等の県内就業の促進といたしまして、離転職者の就職支援と移住支援を併せて推進するほか、離転職希望者向けの民間求人サイトとの連携の強化を図ってまいります。県内新規大卒者等の県内就業の促進といたしまして、大学1、2年生を対象に、時期を前倒したインターンシップの展開や、県内高校生への地元企業と連携した特色あるキャリア教育を推進してまいります。

10ページをご覧ください。重点課題2の「若者・子育て世代の移住の拡大」につきましては、多様化する暮らしのニーズへの対応といたしまして、首都圏のテレワーカー向けの情報発信を強化するほか、「仕事のある住まい」の形成や広い家への住み替えを促進してまいります。また、市町の独自施策の支援により若者や子育て世代の移住を促進するほか、副業ニーズの高まりを受け、インターネットを介して全国の仕事が受注できるクラウドワークサービスを利用できる仕組みを構築してまいります。移住につながる事前の「関係性」づくりといたしましては、県外学生をターゲットにフィールドワークの実施を通じた関係づくりに新たに取り組むほか、体験型観光等の付加価値の高い旅行商品造成の取組を強化してまいります。

11ページをご覧ください。重点課題3の「子育てと両立できる働き方の導入」につきましては、出産・育児期の就業継続の促進といたしまして、男性や経営者の意識改革のため、アンコンシャス・バイアス（無意識な偏見や思い込み）の気づきをテーマにしたセミナーを実施するほか、子育てと仕事の両立に取り組む「このとりカンパニー認定企業」の優遇制度を拡充してまいります。また、保育士や、放課後児童クラブ支援員の人材確保を図ってまいります。離職者の復職等の支援といたしましては、しずおかジョブステーションにおいて、子育てしながら働きたい方に対するセミナーや個別相談等による復職支援を行うほか、オンライン職業訓練の機会を新たに提供してまいります。また、子育てしながらでも働ける自由度の高いワークスタイルを提供するため、インターネットを介して全国の仕事が受注できるクラウドワークサービスを利用できる仕組みを構築してまいります。

12ページをご覧ください。次に戦略ごとの今後の取組方針の明示でございます。戦略1では、感染症対策の司令塔機能を発揮する「（仮称）ふじのくに感染症管理センター」の設置や、総合的な風水害・土砂災害対策の流域全体での推進、新たな地震・津波対策アクションプログラムの策定、盛土に対する指導監督

体制の強化や危険性のある盛土の是正、県庁の組織文化の改善に取り組んでまいります。

13ページをご覧ください。戦略2では、中小企業の経営革新や事業継続、資金調達の支援や、自動車産業の新たな研究開発、製品開発等の重点支援のほか、スタートアップやベンチャー企業の継続的創出、高度なスキルを持ったICT人材の育成に取り組んでまいります。また、農業のスマート化、木材の安定供給のための生産拠点づくり、漁業高等学園を核とした漁業就業者の確保・育成を推進してまいります。

14ページをご覧ください。戦略3では、東アジア域内の文化の相互理解と連帯感の促進を目指す「東アジア文化都市」として、本県が日本の文化芸術を世界に発信する名誉ある地域に選定されたことを受け、2023年は、日中韓の4都市との都市間交流や、スポーツ文化や食文化、ファッションを含む本県独自の文化芸術イベントなどを、年間を通じ、切れ目なく実施してまいります。

また、浜名湖花博20周年記念事業を実施するなど、世界クラスの資源を活かした“ふじのくに”静岡の魅力を国内外に発信してまいります。

15ページをご覧ください。このほか、「ガストロノミーツーリズム」の推進、世界的なスポーツイベントの「レガシー」を活用した交流拡大、多様で魅力ある学びの場づくりの推進、県内高等教育機関の学びの充実、価格動向に左右されにくいエネルギーの地産地消の推進に取り組んでまいります。

16ページをご覧ください。戦略4では、市町と連携した地域での結婚支援の充実や、子育て世代包括支援センターの相談支援体制の強化を図るほか、児童虐待の早期発見・対応の推進や、ひとり親の希望就業先確保に向けた求人開拓、保育施設等送迎バスの安全対策を徹底に取り組んでまいります。

17ページをご覧ください。戦略5では、新しい生活様式に対応した地域活動の活性化や、「言葉の壁」のない多文化共生社会の実現、利便性の高い生活交通の維持・確保、農山村がもつ地域資源の保全活動の促進、行政のデジタル化による“ふじのくに”スマート自治体の実現の促進を図ってまいります。

18ページをご覧ください。「重要業績評価指標（KPI）の見直し」でございます。最新の実績値が目標値以上となった指標等について、見直しを行いました。

19ページをご覧ください。次に、国が昨年12月に閣議決定した「デジタル田園都市国家構想総合戦略」の概要でございます。社会情勢の大きな変化に対し、デジタルの力を活用した地方創生の加速化・深化による「全国どこでも誰もが便利で快適に暮らせる社会」を目指すこととしております。また、これまでの地方創生の取組につきましても、蓄積された成果や知見に基づき、改善を加えながら推進していくとされております。まち・ひと・しごと創生総合戦略を抜本的に改訂した、2023年度から2027年度までの5か年の新たな計画であり、地方版総合戦略も改訂に努めることとされています。県といたしましては、今後、県民会議の構成員の皆様をはじめとした有識者の方々や、県民の皆様の御意見などを踏まえ対

応をしていきたいと考えております。

20ページをご覧ください。最後に、伊豆半島地域の取組状況です。伊豆半島地域の目指す姿は、「世界レベルの魅力あふれる自然を活かした観光交流圏」です。今後の取組方針としては、伊豆ヘルスケア温泉イノベーション(ICOI)プロジェクトの展開により、伊豆半島の温泉を核とし、自然、歴史、文化、食及び運動などの地域資源と組み合わせたヘルスケアサービスの創出を支援するとともに、温泉研究者間のネットワーク形成や産業人材育成の場としての研究拠点の創出を目指します。また、世界遺産韮山反射炉、伊豆半島ジオパーク、世界農業遺産「静岡水わさびの伝統栽培」等、世界クラスの地域資源を活用した観光プロモーションや営業活動を強化します。さらに、地方移住への関心が高まっている機会を捉え、東京圏におけるテレワーカーをはじめとする移住関心層や検討層に向けて、本県で暮らす魅力等の情報発信を強化してまいります。

私からの説明は以上でございます。

**【板垣 東部地域局長】**

ありがとうございます。続いて事務局より、構成員の皆様にご覧いただきました意見について、とりまとめていると聞いておりますので、内容について御紹介を願います。

**【青木 地域局次長兼地域課長】**

はい。それでは、お手元の資料7 美しい“ふじのくに”まち・ひと・しごと総合戦略の取組状況の事前意見をご覧ください。

構成員の皆様には、期間の短い照会にご対応いただきまして、誠にありがとうございました。こちらには、ご回答いただきました内容をそのまま掲載してございます。ここからは進捗評価にかかる部分を中心に意見交換をお願いいたします。事務局からは以上になります。

**【板垣 東部地域局長】**

はいありがとうございます。事前の意見登録ありがとうございました。ここからは評価に関わる部分についての意見交換となります。

本来であれば、御出席の皆様全員に発言をお願いしたいところですが、時間が限られてございます。御提出いただいた意見に加えて、これだけは話したい、あるいは意見提出してから、本日までに追加で話したいといったことがございましたら、御発言願いたいと思います。意見がある方に手を挙げていただけると助かりますけども、どうでしょう。

私の方からふって申し訳ないですが、資料7の事前意見の中で、本日WEB参加されている社会福祉法人梓友会の川島理事長の方から合計特殊出生率や観光客数のさらなる向上のためのご意見をいただいておりますが、ぜひ何か加えまして、ありましたら、いかがでしょうか。

**【社会福祉法人梓友会 理事長 川島氏】**

川島です。資料についての補足説明を申し上げます。憩いICOIという意味で本来小文字のスペルが正式なので訂正いたします。コワークなどこれは他県ですで行っている好事例でありましてワークスペースを複数名で使用する場づくりやママ友同士が気軽に触れ合える内外の地域における場づくりをそれぞれの地域でその地域が持つ魅力と一緒に提供できる取り組みをもっと拡充していくことなどを追加したいと考えます。

次に各市町村が持つキャパシティの可視化が必要であり少子化人口減少に合わせた各地域での目指すべき目標値の修正や限界性を明らかにしていくことも必要と思えます。

3つ目は学生にコンテンツを訴求する場合、現在よりもターゲットを絞り明確化していくことがより効果的な実現につながることで倍速消費者としての?世代や学生にはより有効になると言えます。以上です。

**【板垣 東部地域局長】**

ありがとうございました。貴重なご意見ありがとうございました。その他、会場にお越しの皆様いかがでしょうか。

**【一般社団法人静岡県定置網 理事長 日吉氏】**

移住促進の話しても良いですか。

**【板垣 東部地域局長】**

まずは、まちひとしごとの創生会議の評価のところに関してお願いしたい。

特に意見がないようでしたら、いただいた回答を資料7に含めて県庁の所管課である総合政策課の方にお伝えしていこうと思っています。承認いただける方は拍手、オンラインの方はマルのジェスチャーをお願いします。

(全員拍手又はマル)

はい。ありがとうございます。また、その他のご意見をいただく場は設けておりますのでその際をお願いいたします。それでは次の議題に移ります。次第の3(2)「地域の課題解決に向けた取組について」になります。はじめに現在の伊豆半島の状況について、皆様と情報共有させていただければと思います。静岡県賀茂地域局と静岡県伊豆観光局の柳川局長から説明をお願いします。

**【青木 賀茂地域局次長兼地域課長】**

それでは私の方から資料8と9についてご説明します。

資料8をご覧ください。上段は伊豆半島地域の年齢別人口の推計になります。平成30年に国が推計した予測では、伊豆半島地域は全県よりも早く人口減少が進み、令和27年には約40%ほど減少するとともに、65歳以上の割合も令和27年には約46%となる見込みとなります。なお、令和2年の国勢調査結果では568,202人と

ほぼ推計通りに進んでいる数値となっております。下段では、市町ごとに予測と実際の増減を比較しております。伊豆半島地域では直近5年間で全市町の人口が減少し、一部の市町では国の予測を超える減少となっております

裏面上段をご覧ください。こちらは市町ごとの出生児数と将来推計になります。伊豆半島地域全体の出生児数は令和3年時点で平成30年に推計された令和3年から7年の5年平均の値を下回っており、市町ごとにみても13市町のうち、11市町で推計を下回っております。下段は上段の数値をグラフ化したものとなっております。

次に、資料9をご覧ください。「東アジア文化都市2023静岡県」についてです。

こちらは、日中韓の3カ国が文化的な多様性を尊重しつつ、国民間の相互理解や友好を増進するため、3カ国から選定された都市が、都市間交流を含む文化芸術イベントを1年間を通じて展開する事業になり、2023年日本からは静岡県が選定されております。2枚目下段をご覧ください。こちらが具体的な取組になります。県では、この事業における文化を、芸術分野だけでなく、スポーツ・食・ファッション・芸能・温泉・花など幅広く捉えて実施することとしておりますので、本事業について様々な分野の視点からのご意見をいただければと考えております。

以上で資料の説明を終わります。

#### 【柳川 伊豆観光局長】

続きまして、私柳川の方から伊豆半島地域の宿泊客数について説明いたします。資料10をご覧ください。上段の折れ線グラフでございますけれども、本県の地域別の宿泊者数の推移についてお示ししたものでございます。本県の宿泊者数は平成3年度、1991年の2,765万人をピークに減少しており、東日本大震災の影響等もあった平成23年度を底に、平成24年度以降は増加基調にありましたが、新型コロナウイルスの感染拡大の影響を大きく受け、令和2年度には1,083万人と前年度比で4割以上の減少がございまして、令和3年度には、コロナ禍前を大きく下回ってはいるものの前年度比20.9ポイント増と回復傾向が見られます。

下段をご覧いただきたいんですが、地域別にみますと大変小さい表で恐縮でございますけれども、伊豆地域の宿泊客数が圧倒的でございます。その割合は令和3年度におきましても、県全体の宿泊客数の半分以上を占めております。

続きまして、下段をご覧ください。伊豆半島地域の宿泊客数の推移になります。熱海・伊東地域、伊豆北部地域、伊豆南部地域の3つの地域で見ると、熱海・伊東地域が最も多く全体の約半数を占めております。伊豆南部地域におきましては平成3年度以降減少が目立っております。東日本大震災のあった平成23年度以降では、熱海・伊東地域と伊豆北部地域は増加基調、伊豆南部地域は横ばい状態となっており、傾向が異なるという数字が出ております。

続きまして、各市町別の宿泊客の状況でございます。めくっていただいて裏面をご覧ください。各市町ごとの状況を見ると、いずれの市町も新型コロナウイルス



ス感染症の拡大の影響を受け宿泊客数は減少していますが、市町により減少幅や回復状況は異なっております。令和3年度と元年度の比較で見ますと、おおむね5割から7割程度に回復しており、三島市や伊豆市は8割以上まで回復しているという状況でございます。

この表ではございませんけれども、令和4年のゴールデンウィークの主要な東部地域の宿泊施設の情報などを見ましても、大幅な回復を見ているところでございますし、昨年末の観光の現状について、各市町の観光協会へ私どもが聞き取りを行ったところはほとんどの市町の宿泊施設や観光施設で回復傾向にあるということで肌感覚ではコロナ前の7、8割程度に戻ってきているという話しを得ているところでございます。

私からの説明は以上です。

**【板垣 東部地域局長】**

ありがとうございます。続きまして、事務局より事前に構成員の皆様にご照会しました意見について、とりまとめていると聞いておりますので、内容について紹介願います。

**【青木 賀茂地域局次長兼地域課長】**

はい、それではお手元の資料11「地域の課題解決に向けた取り組みについて」の事前意見を御覧ください。

こちらにつきましても、御回答いただきました内容を、極力そのまま登載してございます。事務局からは以上です。

**【板垣 東部地域局長】**

ありがとうございます。それではここから意見交換に入ります。

なるべく多くの方から発言をいただきたいので恐れ入りますが、1回の発言は3、4分程度を目安に発言をお願いしたいと思います。また、御発言の際は、所属とお名前をおっしゃっていただければと思います。

**【一般社団法人静岡県定置漁業協会 代表理事会長 日吉氏】**

静岡県定置漁業協会の日吉と申します。ちょっと定置網漁業のコマーシャルをさせていただきます。私は城ヶ崎海岸で定置網をやっているんですけども、私の所だけであるめいかだけが1.5トン、ほかにソウダガツオやアオリイカなどをとっていて、伊豆半島では一番生産量が大きくなっているのが定置網漁業になっている。

うちに新卒が2人入ることになって。静岡県の移住促進の制度を調べることがあって、東京23区から移住する人しか補助が出ないと知ってとてもびっくりした。横浜市や町田市だと出ないのか。その補助がでないのか。

伊東市は伊東市民病院があるから、それなりに人は来る。お医者さんとかの医

療関係者が。伊豆市にもそれなりの制度がある。どこから来ても関係ない。来てくれるのはお客さん。

先ほど説明があったけど、賀茂の地区はやばいよね。数年後に限界集落とかそういうものがある。それなのにまだ23区、どういう制度かわかりませんが、真剣さがわからない。この会議も初めから出てます。真剣にやろう、伊豆半島を真剣に振興するならば、どこでもいいじゃん。来てくれるのがお客さん。23区で縛りをしたら、予算が消化されない。そうしたら、オンラインでもいいんだという。それが事実かわからない。だけど、予算消化するために、予算が消化されないからオンラインも対象にするのか。それは勘弁してよ。すぐそこに伊豆半島の人口減来ている。だからこの会議でやってくれてるわけでしょ。ずっと危機感があるんだよ。俺は先祖代々ここに住んで、伊豆半島に思い入れがある、だからこういう口調になるわけだけど。ちなみに私の漁業会社に入る2人は新卒で上智大学と関西大学。驚きました。うちは別に募集もしてません。向こうから来ました、何で来たんだと聞くと、食糧問題は必ず現実になると2人とも言っている。1人は自由が丘です。だから目黒だからこの23区に入ってきました。もう1人が関西です。食料問題、一次産業は大事になるからと。何学部か聞いたら法学部でした。ご両親から電話があつてお願いしますと、初めてですよそういうの、そういう世の中が変わってます。細かいところは分からないけれど、明らかに東伊豆と賀茂地区は首都圏です。首都圏の目で見て、静岡の目で見ていいことなんてあるわけない、ということです。すいません、漁師なのでデリカシーないかもしれないけど、思い入れが強いからこういう発言です。

もう1件あった。縦貫道ができれば伊豆半島の振興ができるという考えもあるけど、もう既に土日になれば、大仁から道路が混んでいるんですよ、首都圏の人は渋滞を凄く嫌うのに、このまま伊豆縦貫道が全部繋がると真鶴道路と同じ渋滞になる。対策として、伊豆スカイラインに迂回してもらえるように言えば良いのに、なんで県の人言わないの。亀石峠を上がって大仁から、箱根に行くのは渋滞なしでいけるわけよ、ターンパイク通ってもいい、東名の御殿場に抜けてもいい、あのロケーション右側には相模湾が見えて、左側には駿河湾が見えて、富士山とあんな良い景色ないよ。縦貫道なんて国ものじゃないか、なんで県のこと言わないの。あんなドライビングコースはないです。何十キロも家もなくてね、あんなところないです。皆さん絶対走った方がいいですよ。ただ、千円。

伊豆半島のジオパークのこともありましたけど、世界ジオパークとして誰が来てるの、俺はジオパーク2011年からやっています。ジオマリンガイド作ったのは私です。私はダイビングやってるんで事業組合で、ダイビングは自然科学が好きな人がお客さん。お金をすごい落としてくれる。その彼たちですら、ジオパークには興味がない。10年もやっていれば、公費を使ってるなら、ここでそろそろ検証した方がいいのではないかと。それが本当に伊豆半島の振興になってるのか、お客が増えてるかっていうのを検証してください。ジオパーク村だけでやってることが、ずっと公費を使ってやっていることが、いくら出るかわかりませんが、こ

ここにもジオリアがありますけど、誘客になってないじゃん。僕の港はジオサイトです。ほとんどいないよ、僕は初めから絶対誘客になると思ったからジオマリンガイドを作りました、ところがジオパークではお客を呼べない。10年間現場で見た。もっと違う方法があるはず。行政が公費を入れるのは。例えばジオパーク公費を出すなら、伊豆スカイラインを500円にするとか。そういうものが地域貢献というのではないの。以上です。

**【板垣 東部地域局長】**

ありがとうございます。地元の方ならではのご意見ありがとうございます。その他何かご意見ある方いらっしゃいますか。WEBの方でもご案内できますがいかがでしょうか。事前の意見もいただいておりますので、子育てネットワークの稲葉様いかがでしょうか。少し接続が悪いようですので、後にさせていただきます。それでは賀茂医師会の太田会長いかがでしょうか。

**【一般社団法人賀茂医師会 会長 太田氏】**

賀茂医師会の太田と申します。私が発言するのは資料に書いてあることですが、この会議を聞いていて人口減少にあるというのが大きなテーマだと思うんですが、その部分ではやっぱりいい居住してる人たちが安心して生活できるだけの医療環境の整備ということも大事。

移住してくる人たちもやっぱりそれを望んでる。

そういう意味から言って、一つ、伊豆半島においては、伊豆半島の上半分と下半分では、段違いに状況が違います。

さっき日吉さんが賀茂地区はひどいとおっしゃってるんですけど、まさにその通りで、伊豆の下半分というのは医療に対して非常に脆弱なものですから、その伊豆の下半分の賀茂圏域のお話をさせていただきます。

住民の方の医療安心という問題で、まず一つは救急医療なんですけども、伊豆半島の先端の地域では、夜間の3次救急に非常に困ってる現状です。

例えば心筋梗塞とかくも膜下出血とかを南伊豆でおこしたとして3次救急の施設まで陸路で1時間半以上あります。ですから南伊豆に限定すると大変失礼なんですけど、先端地域でそういう三次救急の疾患を起こした場合特に夜間で起こした場合は助けられる命も助けられないのが現状。昼間でしたら、ドクターヘリが飛びますが、夜間は飛びません。ですから夜間のヘリをどうにか地域の人たちのために運行できないかと思います。残念ながら自衛隊も法律上できないとのことなので、その点県の方にもご考慮いただきたいと思います。

二つ目、防災医療のことなんですけど、伊豆半島で災害が来たら、めちゃくちゃなるというのがよく言われておりますが、小さな集落が点在するところでは、まず孤立化すると思います。そういったところに薬品であるとか、医療機材をちょっと運ぶのにドローンが非常に重要なんですよね。このドローンっていうのは全国的にも結構やってますし、賀茂地区の市町でも実験的にはいろいろやっ

す。西伊豆町あたりでは、静岡大学の先生と相談しながら進めたりしてるようなんですが、残念ながら、ドローンの運搬は、法律上合法ではないというのが現状です。ですから災害時のドローンによる運搬を特例でも良いので合法になるように国へ働きかけができないかというのが一つあります。

三つ目、小児医療の充実なんですけども、私の診療所に一月ぐらい前に来た移住の若い方が言っていた。移住するのに二の足を踏む要因として小児医療があ。る子育て世代の人が伊豆に移住しようと思っても、小児科がないとちょっと踏み切れないよということをおっしゃってました。

賀茂地区では、小児科専門の個人の医療機関は2つしかない。もし地域の病院から小児科医の派遣要請が県の方にあった場合、前向きに対応していただきたい。

最後ですけども、賀茂地区は、いわゆる生活習慣病の有病率は、非常に高く、県内1、2を争うそうです。やっぱりそういうところには暮らせないと思うんですよね。旅館や工場などの従業員の方にも健康を提供しなければならない。特定健診などが必要になってくる。これもコロナの影響を受けまして、コロナ前の受診者数を100とすると50を割るくらいになる。本年度はやや盛り返して80ぐらいまで盛り返しています。ただ私の予想としてはそれ以上盛り返すのはかなり難しい。というのは、このコロナ後の常識、3密を避けるという常識が浸透してる今、大規模な会場での大規模な集団検診というのができないんです。ですからこのところは、検診の主体である市町と相談しながら、何らかの方法をとっていかないと難しいと思います。以上になります。

**【板垣 東部地域局長】**

ありがとうございます。漁業、医療と来ましたので、次に産業の観点からご意見をいただければと思います。今日の商工会議所さんも出ていただいておりますので、下田商工会議所さんの方で何かもしご意見あれば、お願いします。

**【下田商工会議所 会頭 田中氏】**

すいません感覚で申し訳ないんですけども、人材の確保というのが非常に長期的には難しいということはずっと深く感じてるんですけども、もっと近々ですね、夏にもしお客様が戻ったときに、観光地として受け入れ体制ができるかどうかというところは、いろんなところから情報が入ってきてないので、ちょっと不安な面がありまして、心配をしてるんですが、いかがですかね。

**【板垣 東部地域局長】**

具体的にはどういうところが不安ですかね。

**【下田商工会議所 会頭 田中氏】**

例えば宿泊施設は伊豆賀茂地域は、有効求人倍率は高いと思うんですけども、

本当に人を雇えるのかという不安があります。そういう地域から要望とかは全然出てないですか。私の方も感覚だけの話ですからすいません。

**【柳川 伊豆観光局長】**

観光人材の不足はすごい言われている。各地域で取り組んでいるが、全県的になっているので、観光人材については決定打がない状況。引き続き、お話しを伺いながら、検討をしていく。

**【下田商工会議所 会頭 田中氏】**

なかなか、解決策は難しいですかね。非常に心配していることすみません。以上です。

**【板垣 東部地域局長】**

ありがとうございます。賀茂の方の話しになっているので、引き続き賀茂の方、松原さんお願いします。

**【南伊豆コーディネーター 松原氏】**

南伊豆コーディネーターの松原です。流れ的に指されるかなと思っていたんですが、観光人材に関して私のところは個人で一人でやっているんですが、おっしゃるようにコロナ禍で旅館とかホテルさんとかだいたい人材を削らなきゃといけなくなって、働けなくなった方がもう観光以外の分野で働いている。なかなか先が見えないので、観光でどうやって食べていくのかや観光でないことで生計を立てていかなければいけない人がいるという話しは私のまわりでは聞く。。

ただ南伊豆もほぼ観光がメインの産業なので、先ほど出たリモートワークとかテレワークというところで、今まで私は宿業以外の地域コーディネーターの仕事がコロナになって、ほぼゼロになってしまってたんですが、首都圏の会社が町内で事業をするというところで、今年度増えてきました。南伊豆町に2週間滞在してもらって、町内の情報を発信してもらうものになります。今回は東北の方とか関西とかっていうのがすごく多いというのが目立ちました。短期間だとそういう所から来るのは大変ですが、長期滞在できるっていうのが魅力みたいです。今いらっしゃる方も福井からいらっしゃるんですが、そういった来たいという方が増えてきている中で、観光業が奮起できるような施策が出てくれば、観光人材の人達もまた観光で商売をしていこうと思うのでは。

私も観光業メインでやっているんで、大きなホテル、旅館、観光協会さんで盛り上げていただかないとなかなか個人では難しい。県の方々も色々動いていただいていると思いますが、またコロナのレベルの方も上がってしまったんですが、ただコロナを怖がるだけでなく、共存共栄できるようにしていければと思う。以上になります。全然ありがとうございました。

**【板垣 東部地域局長】**

ありがとうございます。まさに観光に携わる人の意見でした。他の方がいいがでしょうか。WEB参加の方でも大丈夫です。野田さん、目があいましたね、よろしくをお願いします。

**【NPOサプライズ 事務局長 野田氏】**

NPOサプライズの野田です。目があってしまいました。私たちNPOサプライズでは、伊豆市さんから委託いただいて移住情報センターの運営をしております。先ほど日吉さんからもちょっとお話があったように、伊豆市では医療と観光のお仕事に従事される移住者に対して、一人親限定ではあるんですけど補助の方ををさせていただいております。ここのところコロナに入ってから、一人親の方からの相談が全国的に非常に増えているのが現状。最初は観光だけでしたが、一人親で身寄りがなく、親戚とかいなくて移住をする場合に、観光業は土日祝日勤務がメインになるので、子供連れてきて補助が出るから興味あるし、経験もあるからやりたいんだけど、やっぱり子供がいるとそれが現実的にできない。保育とか学校の体制も整っていない中で補助金が出ますよと言ったところで受け入れ側も困ってしまうという課題がありました。そこで医療介護がプラスされた。子育てが終わったら、夜間祝日に従事できる人材になってもらうという長期的な視点で考えている。伊豆半島の宿泊業だと、やはり小規模でやってらっしゃる方がいるので、育つまでお子さんが育つまで待っていただける体力、余裕があるところはかなり少ないと思います。

何年前の会議でも発言しましたが、学校とか保育は伊豆半島はどうしてもこれから小規模の学校、こども園とか増えてくると。その中で例えば、土日祝日に学校に行って、平日にお休みがあるみたいなもの、ちょっと現実的には難しいのかもしれないですけども、特区的にできたりすると、私も観光業に従事していたことがあるんですけども、親の休みでも子供も休みじゃないので、家族旅行行きたくても行けないですね。本来旅行に行きたい方々でも、親が休みでも子供が学校に行くので行けない、土日子供を休むときに親が仕事なので、やはりここにも行けないというちょっと悩んだときもあったんです。

小規模でいいので、テスト的な分校なり、ひとクラスなりがあったりすると、全国的にも注目を集めて、移住したい人にも注目してもらえるのではないかというのは、日頃考えています。ちょっとそれをどうやって現実的にすればいいかっていうところは、また別の話しですけど、以上になります。

**【板垣 東部地域局長】**

たしかに観光は逆ですね。皆さんがお休みしているときに働いて、お子さんの生活とは逆になりますね。子育てしながらは難しいと思います。ありがとうございました。その他いかがでしょうか。堀井様農業の関係でいかがでしょうか。

【伊豆ホーリーズ株式会社 代表取締役 堀井氏】

伊豆ホーリーズ株式会社堀井でございます。我々は農業をしています、伊豆半島の田方平野ですね、伊豆の国市狩野川の近くで、広大な田方平野の非常に恵まれた農地で農業をしています。

一言で言えばXデーが来てしまうんじゃないかというところを、非常に危惧しています。伊豆半島の産業構造や移住者の方のについて何とかならないかというのは常日頃畑を眺めながら我々考えていまして、仕事自体ですね、例えば現場仕事はリタイアされた方の運動目的みたいな形の側面があったりするので、高齢の方のリタイアする方は非常に興味がおありなのですが、そこから例えば産業構造に入っていくとなると、ちょっと大変で、現実的には、構造として若い下積みから始めて、体を使う仕事ですので、体を壊してしまうと、生活もままならなくなってしまう。体がよければ、産業として成り立つというところを何とか解消していかなければいけないですね。

食料安全保障みたいなことになると、非常に現実をおびるといえる。静岡県で2万5000人農業者がいるんですけど、2万人が60歳以上。およそ10年後にはその2万人は退室をしていき、残された我々が農地を使っていく。これ現実的に非常に信憑性が高い、後継者がいないという事業者がおよそ1万5000人ほどという中で、現実的に1万5000人が消滅するという中で、小規模農業を大規模に効率化していくのも一つあります。皆さんの興味のある食の問題で、言われていることで外国に産業として効率的に負けているというところ、大規模な支援がなければという構造です。大戦後をGHQが農地解放し、それまでは庄屋様が小作人も抱えていたが、例えば、商社がメーカーを扱うような形でメーカーも原価が上がったりしたら、効率を考えて、優秀なメーカーが残ってきている産業構造だった。それを農地解放して、小作人に農地を切り分けたというところで、自作農になった感じですね。小地主、自作農も自分でプレイヤーになる。それが個人事業にするなり、兼業農家となり、それだけで、飯が増えた時代があったんですけど、自分で食べる米もまかなえるし、利益はないけど兼業でやれてるっていうところで、農地が回らない。皆さん既得権として持ってしまったんで。我々専業農家が例えば原価が上がって、効率化しなければいけない中で、事業拡大できないっていうところで、我々もミスマッチ。後継者不足ということで、残り5000人の我々がどうそこに立ち向かっていくかというところが、5年から10年先までの課題になる。

それを若者の移住でというふうになります、若者非常に頭がいいですね、あと情報収集力も高い。共有能力も高い。若者は馬鹿じゃないので、例えば国のために力になれると言っても。若者移住に向けた農業の改革を、改革と言っても難しいことではなく、例えばリタイアされる農家さん、80歳のおばあさんがいつ辞めるよというような情報とかが出てくるならば、我々も準備ができる。3年5年後に向けた事業基盤を、計画するということは、金融機関などいろいろ相談することができると思います。やめるタイミングだけでも分かれば良い、そこから先は我々が考えるぐらいの気持ちであります。そのような感じで農業を考えてくださ

い。よろしくお願ひします。

**【板垣 東部地域局長】**

戦後の農地改革なところから、種が蒔かれたみたいな感じがしてドキッとしましたけど。確かに後継者は他の分野も豊富ですが、難しい課題になる。海外の資本もあるので。本当に大きなテーマをいただいたと思う。

ありがとうございます。オンラインですが、伊豆の国市商工会さんいかがでしょうか。

**【伊豆の国市商工会 会長 大沢氏】**

会場の声が途切れ途切れになってしまっている。聞き取りにくい。

**【板垣 東部地域局長】**

分かりました。また後ほどお話しを聞かせていただきます。

それでは意見をいただいている方にちょっとお話しを聞きたいと思います。地元の金融機関と言うことで三島信用金庫の柿島さんお願いします。

**【三島信用金庫元気創造部 主任調査役 柿島氏】**

はい、ご指名ですので少しお話しさせていただきます。地元の金融機関として地域の活性化を見込まないと、我々の事業の今後がないということで今取り組んでおります。

多種に渡って、地域活性化には協力していきたいと思っているところで、例えば事業者数の減少だとか人口減というのは、我々の事業規模の縮小、存続に関わることでありますので、事業継承もしくはM&A、事業補助金の申請の手伝い地域の面的支援を実施しており、面的支援については、伊豆市様と伊豆の国市様で御社の方で今取り組んでいるところでございます。

人材については困っている方にですね、人材派遣会社を通じてご紹介をすとか、多岐に渡って事業に対する問題についてのご相談を解決しようという取り組みをしているところです。

まちひとしごとという面で行きますと、東部地域局さんにもご協力いただきながら、まちひとしごと新聞というものを発刊いたしまして、今年度も継続してやっていますところで、現在7号の発刊ということになり、3月の初めに発刊します。内容については、高校卒業して首都圏に学生が流出した後に、地元に戻って来てもらうというのが元々の目的でございます。5号までは、地域で色々な取り組みをしていただいているところにフォーカスをして、地元の高校、韮山高校、沼津東高校、日大三島高校、熱海高校の4校の新聞部に取材いただいて、記事を書いていただいて発刊をしております。6号からは、コロナもございまして若者の仕事に対する価値観も変わってきたところを感じられましたので、仕事をしながら、地域貢献をする方や団体にフォーカスして取材をしている。



今年度は、脱サラをしてキャンプ場を開いた方、公務員をしながらNPO法人の代表をされている方、沼津港の活性化に取り組んでいる企業様、副業人材を積極的に取り組んでいる企業様に各4校の新聞部に取材をしていただいて、3月1日に7号は発刊する予定でございます。

我々の事業はどちらかというと、お金を集めて、融資をして利ざやを稼ぐみたいなど感じる方が多いと思うが、地域の活性化なくして我々の事業はないと思うので、各ご相談を受けながら対応させていただいている。

今後についてはコロナによって、仕事の仕方がかなり変わってきていることは強く感じておりました、職場で仕事しないで自宅で仕事をしたり、ワーケーションをしたりということで、いろいろな面で価値観が変わっていくと感じている。その辺のところで、ご協力していきたい。またアウトドアやキャンプや注目がされているので、伊豆半島のその辺りの魅力は注目されていくのではと思う。今こそ、産官学金連携で地域の魅力を発信して地域の学生に分かってもらうチャンスだと思うので、その中で金融機関としてできることがあれば協力していきたいと考えております。以上でございます。

**【板垣 東部地域局長】**

ありがとうございます。日頃の取り組みなども紹介いただき、参考になりました。それでは、お隣の戸崎さん何かありましたら意見をいただければよろしいでしょうか。

**【連合静岡伊豆地域協議会 議長 戸崎氏】**

お疲れ様です。連合静岡伊豆地域協議会で議長を務めております戸崎と申します。連合というと労働組合の集まりで、私の元の母体が伊豆急行という鉄道会社になります。伊豆急行という輸送会社の話をちょっとさせていただきたいと思えます。伊豆急東海タクシーという会社がグループ会社にあつたのですがコロナの影響でお客さんが来ないということで新富士交通という富士のタクシー会社に株式譲渡をして、グループから離れてしまった。

下田に住んでいるが、鉄道も減便している状況だが、賀茂地区のタクシー業界も厳しい。下田だと栄協さんという会社がタクシー2台24時間動いているが、他のタクシー会社は10時でお客さんがいなくなってしまうので動かしていない。河津ですと常駐の車は5時ぐらいで終わり、その後は予約が入ったら動くという状態。東伊豆もタクシーを2台ぐらい置いている。鉄道でお客さんを連れてきて、自家用車があればいいが、なければ移動手段というのはタクシーしかない。バスも早い時間になくなってしまふ。公共交通の補助金を県とか国に動いてもらわないと観光業は衰退してしまうのではと思う。

先ほどキャンプの話もあつたのですが県の方でゆるキャンというアニメのキャンペーンをやっているのですが、宣伝の仕方があまりにもひどすぎる。労働金庫と繋がりがあつて、労金でもキャンペーンを県とは関係なくやっているが、県のキャ

ンペーンは市町にポスターが貼ってあるぐらいで何も動いていない。どのくらい予算を使ってるか分からないが、活性化に向けてアピールしたり、コマーシャルとかを考えればお金の方も上手く有効活用できるのではと思います。

私からは以上です。

#### 【板垣 東部地域局長】

タクシーは人材面でも難しいと思う。70歳代が多いと聞いたりする。乗るお客さんもだが、運転手の人材確保も大変だと思う。ご意見ありがとうございます。地域のDMOという立場から美しい伊豆創造センターの植松専務、よろしくお願いします。

#### 【一般社団法人美しい伊豆創造センター 専務理事 植松氏】

美しい伊豆創造センターの植松でございます。

ご存知だと思いますけれども、ジオパークの管理運営を、この4月1日から、美しい創造センターで管理していくとなっています。そして、5年ほど前に世界認定をとって、事業を継続しながら、昨年10月に世界審査がございました。先月12月に再認定ということでまた4年間の任期をもらってですね、ジオが認定されたという形になっています。

ジオといいますと、地形ですとか地質と言われますけれども、この伊豆半島の大地の恵もそうですよし、わさびもそうですし、キンメダイもそうですし、海からの恵み、そして山からの恵み、そういったものも全部ジオの大地の上に立っているというふうなことです。

あとプラス文化でございます。文化これは天城辺りはたくさんの方文豪も泊まっていますね、世界的な川端康成さんなんかも、そういった作品をこの伊豆半島で作った。昨年は義時をやりましたけれども、頼朝がここで武士政権を立ち上げた、最初のところということで、鎌倉時代から江戸幕府が終わってペリーが黒船で下田に来るといって、500年ぐらいを伊豆半島はずっと見てきたというふうなこともこの大地の恵みというふうに捉えて、観光のプロモーションを進めております。そういった歴史的なストーリーとか魅力をですね、ストーリー立てて観光の資料、コンテンツとして使っていきたいなと思っています。

併せて、先ほど人材の話がありましたけれども、美伊豆としても各ホテル旅館の組合さんと一緒に企業説明会、マッチングをやっています。2月にですね、令和6年卒業生を対象に企業説明会を開催。ここ3年間は、本当に厳しく出展される方も少なかったんですけども、今年は18社ぐらいの少し大手である程度従業員を18社がエントリーしていて、各専門学校や大学に声をかけて集まってもらえるような形になっている。去年まではWebで開催するなど、なかなかリアルでリクルートするホテル側の人たちの話を聞けなかったっていうところもありますけれども、今年は一応2月にやる予定。各ホテルが大学に話しをする中で、インターンシップで学生を受け入れていただくというふうなこともDMOとして行

っております。

あと、伊豆半島のジオの関係でございますけれども、ジオサイト200以上ありますけれども、アクセスが良かったり人気が出たところはたくさんお客さんが来ているかなという感じがいたします。

それぞれの市町にビジターセンターがございます。その辺りで集計の方が出ており、先ほど数字がどうだと日吉さんがおっしゃいましたが、そういった数字はここ3年間はさすがに、やはり減って半減していますけれども、徐々に戻っていくのではというふうに思います。

特に吉永さゆりさんが来た、龍宮窟とかは今まで、路線バスもあまり走らなかったところでしたがバスが通ったりとかいう現象もございます。観光DMOとしてまたジオパークの管理運営ということで、今もちょうどここで研修をやっていきますけれども、約200名のジオガイドさんが養成されてきております。ジオガイドさんは有料になりますが、質を高めていただいて、インバウンドに対しては私どもがエージェントにこういうガイドさんがこのようにできますという調整をする。そういったものを若い人たちが携わってできるような仕組みができればいいなというふうに思っております。

#### 【板垣 東部地域局長】

ありがとうございます。地域資源の魅力発信と誘客に引き続き取り組んでいただきたいと思っております。

#### 【一般社団法人静岡県定置漁業協会 代表理事会長 日吉氏】

私は現場で11年やっている。先ほど景勝地に人は来ているということでしたが、元々そういうところに人は来ていた。ガイドさんも作っていると思います、城ヶ崎にもいます。でもガイドしているのを見たことがない。伊東市もジオの推進室には、今はもうポスターもない。熱海市もない。

私はもう公共がやることなのかなと思う。費用対効果がでなければ民間に任せるか、興味がある人たちにやってもらうなど10年あれば考えても良いと思う。本当にジオで人が呼べるのか。世界認定を取るのは素敵だったが、本当に地域振興になるのかちょっとぶれてる気がする。

ダイビングでうちの港に4万人ぐらい来ている。自然科学が好きな人たちだがその人達も興味を持たない。行政だけでやって、しまいには地域の高校、中学でやっている。

頑張りは否定しないが、今後もジオをやるなら協力はするが、10年やったら違う方を目指した方がいいということを行っている。

公のお金を使ってやることはそろそろ見直すべきなのではないか。一般の方にジオで誘客に繋がったのか検証する必要がある。

余談かもしれないけどここに韓国中国とあるが、何で台湾を入れないのか。台湾に失礼だと思う。伊豆半島は台湾人が凄く多いから。

【板垣 東部地域局長】

ありがとうございます。最後におっしゃった東アジア文化都市は、国の方で言っているのは東アジア文化都市制度自身は、日中韓で始めたので、これは外せない。今、県の方でやっているのは、日中韓に限らず、全ての海外に発信しようという内容になっております。会議時間もありますが、稲葉さんとWEBが繋がったということで、稲葉さんご意見をいただいてよろしいでしょうか。

【NPO法人いとう子育てネットワーク・ゆう オーガナイザー 稲葉氏】

ごめんなさい、パソコンの関係で繋がらなくてすみませんでした。

会議の内容とちょっとずれちゃうかもしれませんが、私達は子育てに特化した形で、実践しております。

今年度は初めて転入者カフェというのを取り組みました。こちらは伊東市からの委託で私達が行っているものです。市外や県外から転入されてきた親子が集まって、伊東市に来て、どういう感想を持ったか、お話を聞きます。

その中で、伊東市に来て一番良かったというのは環境が良い、自然に恵まれてるということ。もう一つは、とても人が温かい、周りの人が自分たちのことを心配して親身に考えてくれてるのがとても良いというような意見を受けました。

私達がやることは本当に子育ての手助けで、ちょっと人がいてくれて手伝ってくれるといいなあということ、無償で行っております。

伊東市に来てこのような制度、手助けがあっても良かったという感想をたくさん聞きます。伊豆半島では、昔から地域の人たちが子供の声を聞くと、とても元気になるということを聞きます。そのような場所なので、できるだけ地域で子育てをする、ちょっと手助けをしてあげる、そういうようなことが、どこの市でも町でもできるといいと感じております。

買い物、病院、交通手段とかちょっと困りますというような意見もあります。先ほどタクシーのお話が出ましたが、市の委託を受けたお金の中で、車がないので会場に行けないという方にはタクシーを使っていただいてタクシー料金はこちらから出しますというような形で使わせていただいております。

皆さん交通手段について、その場所まで行くのが不便というような声はたくさん聞きます。そこを公共機関や、市の補助などを上手に利用していければ、うまくいくのではないかなと感じております。

あと、東京都の子育て支援策が今日も出されましたけど、二人目のお子さんの保育園は無償、それから子ども一人5000円出すというようなお話がありますが、やはり子育てには本当にお金がかかることがたくさんあるので、そういった面で、どこかの財政の中で子育てに特化した予算付けということをしてもらえると、すごく伊豆はいいな、伊豆半島に住みたいなというような気持ちにもなってくれるのではないかなという気がします。

あと給食費の無償など、そのような形で取り組めるところがありましたら、

考えていただければありがたいなと思っております。

少子化解決に向けては子供の出生数を増やしていくような方向に行けるような形にするために、転入されてきて、子供を産み育てていける場所、ここなら安心して産み育てられるというような、伊豆半島になるといいなっていうことを、私達は切に望んでおります。以上です。

**【板垣 東部地域局長】**

ありがとうございました。今コロナ禍だからなのかもしれませんが、子育てを地域で支えるとか繋がり大切さってことを教えていただいたのかなと思います。それでは、お時間もございますので、いったんここで地域の課題解決に向けた取り組みについての意見交換は締めさせていただきます。次の次第3（3）「過去の伊豆半島地域会議で提案された取り組みについて」に進ませていただきます。賀茂地域局から説明をお願いします。

**【青木 賀茂地域局次長兼地域課長】**

はい、よろしくをお願いします。資料の方は12をご覧ください、私の方から若旅IN賀茂キャンに関する説明をさせていただきます。こちらのプロジェクトの経緯としましては、平成30年に伊豆半島地域会議の学生構成員であった静岡大学の学生が、大学生による大学生のための観光ツアーを提案されたことがきっかけで発足しまして、今年で4年目を迎えます。

これまでの取り組み状況としましては、平成30年の提案を受けまして、令和元年にバスツアーを企画したんですけども、台風の影響で中止しました。令和2年、3年はオンラインツアーを開催したが、リアルツアーについてはコロナの感染拡大があって中止となりました。令和4年度はこちらの結果を踏まえまして、気軽に参加できるオンラインツアーで地域を知ってもらおうきっかけ作りとして9月に実施をして、年明け2月は本当に来ていただくリアルツアーを準備しているところです。全体としましては協定大学であります静岡大学、静岡県立大学、静岡文化芸術大学の学生でプロジェクトチームを結成しまして、週1回のオンライン会議を実施しております。

現在は静岡大学の学生が就活等のため抜けてしまったため、現在は静岡県立大学と静岡文化芸術大学の学生がプロジェクトメンバーとして企画を進めております。今年度の若旅プロジェクトの簡単な動画がございますので、そちらをご覧ください。

⇒4分動画（画面共有）

オンラインツアーに続いて、第2弾となるリアルツアー「賀茂、いいカモ。」を2月20日～2月22日の2泊3日で企画しました。チラシを添付しておりますのでご覧ください。3日間の地域の人との交流・ジオスポット巡り、体験活動を通

じて伊豆半島の魅力を体感する行程になっており、2日目には本日出席いただいている松原さんが運営している宿泊施設Dajaに宿泊させていただきます。松原さん当日はよろしくお願ひします。今回のリアルツアーに参加した学生が一人でも伊豆や賀茂を好きになるきっかけになればと思います。

現在、申込受付中で定員に達し次第募集〆切となります。皆様のまわりの大学生へ周知いただきますようお願いいたします。

最後に若旅プロジェクトではInstagramとTwitterで学生が情報発信しております。ご覧いただけるとありがたいです。以上になります。

**【NPOサプライズ 事務局長 野田氏】**

QRコードからInstagramが見れない。アカウントがないと表示される。

**【青木 賀茂地域局次長兼地域課長】**

すみません。確認いたします。

**【板垣 東部地域局長】**

ありがとうございます。若旅プロジェクトについて、事前にいただいた御意見などを資料13「過去の伊豆半島地域会議で提案された取組について」の事前意見としてまとめておりますのでご覧いただければと思います。何か感じたことやコメントなどをいただければと思いますが、いかがでしょうか。今回田中社長事前にご意見いただいておりますが、何か励ましの言葉でも結構でございますので、一言いただければと思いますが、いかがでしょうか。

**【株式会社伊豆新聞本社 代表取締役社長 田中氏】**

伊豆新聞の田中でございます。紙の方でも書かせていただきましたが、若旅IN賀茂キャンについては当初から注目していたが、最初の会議で大学生の方が発表したけれど、どのようにされるか楽しみだったけど、雨で実施できず残念だった。今年はずひ開催していただきたい。紙にも書いたが、若い人達に伊豆を好きになってもらって、インスタで発信してもらえれば、将来的に若いときに行ったところは思い出に残ったところはまた行ってみようと、リピーターになってもらえるといいですね。

若い人たちをターゲットにしているのは大変なことだと思う。すぐには効果は出ないと思いますが、こうした種まきは必要なので、これからも継続していただきたい。

**【板垣 東部地域局長】**

ありがとうございます。また、本日はWEB参加ですが、事前にコメントをいただいている静岡銀行の大石さんいらっしゃいますか。何かコメントをいただければと思います。

【静岡銀行修善寺支店 支店長 大石氏】

静岡銀行の大石です。これまでの議題についてですが、資料に書かせていただいた、DXについては、観光と環境っていうテーマでちょっとお話しさせていただくと、観光は県内企業とセンター技術を持つ主に東京のスタッフ、企業との協業でイノベーションの推進を図る目的で数年前から「TECH BEAT Shizuoka」というものを静岡で主に開催しています。伊豆地域の企業についてはなかなか首都圏のスタートアップ企業との接点がないので、そういったところとなるべく接点を持っていただいて、DXを推進する。

あとはイノベーションですね。イノベーションを持った企業でないと成長できないという傾向が一応ありますので、その辺をしっかりとやっていくところをやっております。

私も実は静岡出身で、今伊豆市に家族で住んでるんですけど、感じるのは地域に元々住んでらっしゃる方とか出身の方って、なかなか伊豆市の魅力ってあんまり感じられてないような気がするんですよ。なのでなるべく元々住んでらっしゃる方とか出身の方については地元を知るみたいなことを1からやっていく必要があると思う。伊豆地域は同様な傾向があるのかなと思う。

あとは首都圏の企業と連携をとっていろいろやってるんですけど、そういう方からすると、やっぱり伊豆地域ってすごい魅力があるということを常々言われる。なので先ほど「TECH BEAT Shizuoka」、「イノベーション」と言いましたが、地域資源を活用するような情報発信を東京の会社にしたり、地域資源の魅力を発掘していただいたりという試みが必要なのかなと感じています。

あと全体的に言えるのは、人手不足ですね。非常に顕著で、観光業や宿泊業は派遣職員を取るにも、費用が高騰してしまって、なかなか取れなくて苦しんでいるという傾向があります。

一方で外国人労働者を雇用するためには居住施設が必要で、その居住施設についてはなかなか確保できないみたいなそういうジレンマを感じてらっしゃる気があるので、地方自治体で何か対策を講じる必要があるのかなと感じています。

環境の面では、地方自治体でもSDGsの推進、宣言をされてる自治体さんもあると思います。企業もSDGsの環境に携わる試みをしていますので、そういう企業があれば、地方自治体と連携をとりながら、環境をテーマとした政策を実施することによって、人が集まったり、高付加価値が高まることもあるかもしれません。関係企業、地方自治体と、連携をとりながら、何か伊豆地域でできればと思います。

最後に観光では、先ほどインバウンドの話が若干あったと思いますが、コロナ前だと中国人のインバウンドが多かったんですけど今は当然ほとんどいなくて、東南アジアがちょっと増えてる状況です。これからは中国人が来たときに、どうするかというところを今のうちに考えることが必要になってくると思います。

す。そういったところを伊豆地域にある数店舗の中で連携をとりながら、伊豆地域全体を盛り上げていきたいなというふうに感じています。以上です。

**【板垣 東部地域局長】**

幅広い観点から意見をいただき、ありがとうございます。同じくWEB参加になりますが、スルガ銀行の仲田さん、よろしいでしょうか。

**【スルガ銀行営業本部法人コンサルティング室 室長 仲田氏】**

スルガ銀行の仲田でございます。本日はありがとうございます。今の学生さんの賀茂キャンのところににつきましては、本年度、この2月にリアルで開催ということで、非常に良い企画だと思いますので、多くの方に参加いただけてきたい。あとは発信のところで、SNSということでお話ありましたけれども非常に内容的には充実した内容になるかと思っておりますので、発信のところで1人でも多くの方に見ていただけるようなところを考えていただければと思う。

あとは金融機関としてですね、やはり企業様の創業だとか、成長後は承継時に金融機関が一番身近なところの存在でございますので、企業様の資金支援だとか後継の問題を支援していく。

人材のところでは、多岐に渡ってサポートできるような形で今後も取り組んでいきたい。伊豆地域につきましては、移住定住ということでは非常に注目されている地域でございますので、他の金融機関からもありましたが、いろいろとサービス等もございますので、連携しながら取り組んでいければと思っておりますので引き続きよろしくお願いをいたします。以上になります。

**【板垣 東部地域局長】**

ありがとうございます。同じく金融機関として、静岡中央銀行さんいかがでしょうか。

**【静岡中央銀行営業推進部 マネージャー 西谷氏】**

静岡中央銀行の西谷です。本日はどうもありがとうございます。賀茂キャンの取り組みについて、資料では一言で非常に良い取り組みだと感じたっていうことで書かせていただいたんですけども、やはり学生さんが制作から携わってやることは、学生の経験値が上げるということでもいい取り組みだと思いますし、この伊豆地域を盛り上げようということで動いているという地域に貢献する動きということでも非常に良いものだなという風に感じました。

この伊豆地域の良さを伝えるっていうところで、先ほどから出てる人材の部分や住んでみたい行ってみたいっていうところで、住んでみたいというところは人材の不足の部分に繋がり、行ってみたいというところは観光が盛り上がるという部分に繋がっていくのかなと思います。学生さん限定というところも、取り組み自体がどんどん大きくなっていけば学生さんに限らずいろんな方が参加できるよ



うになればいいかなと思います。以上です。

**【板垣 東部地域局長】**

ありがとうございます。先ほどは接続が上手くいきませんでした。伊豆の国市商工会の大沢会長いかがでしょうか。

**【伊豆の国市商工会 会長 大沢氏】**

そうですね。他の皆様から様々な意見ありましたが、この商工会は伊豆地区で8商工会あります。函南から南。この8商工会が連携をとってこの地域を盛り上げようと事業をしております。

今まで行われました事業としてIZU食彩トレードフェアがありまして、8商工会が各商工業者にその地域の特産品、開発品を展示即売するものを2日間行っていたのですが、1日目は一般の人は入れないで、バイヤーさん関係への販路開拓としている。

これを続けてたんですけど、マンネリ化しており、参加する業者も限られてきた。参加した人に賞をつけてたんですけど、優秀賞はもう決まった人になってきた。一旦これを見直そうということではなくしたわけではないんですけど、今は再考をしております。また違った形でできたらと思います。

もう一つ、感じるんですが、伊豆は一つとよく言ってますが、商工会青年部は昔から今までずっと言っていて、頑張ってる伊豆は一つにして頑張っていこうとやっているんですが、なかなか結果に結びつかないですね。色々難しいところもあるかと思うんですけども、若い会員たちが頑張っているの、何とかいい結果が出てくればと思います。

伊豆も広いんですけど、色々な食品もあり、観光地もある、温泉もあり海もあり山もある、山登りもできる素晴らしいところだと思うのですが、とにかく全国的にそうなんですが人口減少、これが一番の課題になってきてるんだなと感じます。

その点で一番心配するのは、後継者がいなくなってしまうこと。廃業してしまう人の中には高齢だが、跡継ぎがないのでという人がいる。せっかく地元で事業をして、ここまで来れたのに、廃業してしまうのは勿体ない。赤字でないのに黒字なのに廃業していくという例もあります。地元でそれだけ長く利用してるといことは地元で必要だからこそ、今まで事業をしてきたかと思うんです。ですからなくなってしまうと、周りの人も困ってしまう。商工会としましても事業承継、創業などをして、少しでも会員が増えるように、毎年事業として行政と一緒にやっておりますので、なんとか食い止めたい。

事業所があることは雇用に繋がってくると思いますが、商工会の会員はほとんど小規模事業者で厳しい、国県の支援が必要だと言っております。

色々お話ししましたが、以上でございます。

**【板垣 東部地域局長】**

ありがとうございます。お待たせしてすみませんでした。市町の方にも来ていただいておりますが何かありますでしょうか。そろそろ約束の時間になりましたが、最後に発言を。

**【一般社団法人静岡県定置網漁業協会 代表理事会長 日吉氏】**

海に関する人が私しか出てないので、すごくいい話があります。以前の会議でも話しましたが、海業について国が推進している。午前中にも勝俣農水副大臣が現場を見に来ました。

港湾とか港は県や市町の土地で今までは漁業組合が占有で土地を借りていた。ところが国が漁村が寂しくなるので、漁業組合だけでなく、民間企業にもオープンに開放するというのが、今年から全国的に広まります。

伊豆半島は熱海から沼津まで海に面している。漁業組合が民間と行政と一緒にあって取り組んでいくことが早速始まろうとしている。今日も県の港湾局の方がきてくれましたけど伊豆半島には大事なことなのでぜひ県も応援してください。

**【板垣 東部地域局長】**

貴重な情報をいただきありがとうございます。熱心な議論をしていただき、ありがとうございます。予定の時間となりましたので、ここで締めさせていただきます。まだ、お話し足りないということがあると思います。限られた時間の中でございましたので、もしその他、気がついた点等ございましたら、今日お配りした資料の後ろにFAX送信表というのをに入れてございますので、何かお気づきの点などいろいろございましたら、事務局の方にお知らせいただければと思います。

今日いただいたご意見などを踏まえまして、地方創生政策の変更を図るとともに、県の総合戦略、また今後の具体的な事業への反映を目指していきたいと考えます。

本日は限られた時間で言い足りないことがたくさんあったと思いますが、ご発言いただきありがとうございます。また、円滑な議事進行へのご協力に改めまして感謝申し上げます。

以上で予定した議事を終了をいたします。進行を事務局にお返しします。

**【青木 地域局次長兼地域課長】**

はい。本日は長時間にわたり、様々な御意見をいただき、誠にありがとうございます。以上をもちまして、美しい“ふじのくに”まち・ひと・しごと伊豆半島地域会議を終了いたします。皆様お疲れ様でした。